

第6回 Happiness Meeting 報告

主任 渡部博志



Happiness Meetingの様子▲

この2年にわたり、新型コロナウイルス感染症が私たちの日常に大きな影響を及ぼし、それまでとは異なる日々を送ることになりました。しあわせ研究所の諸活動においても様々な形での変更が余儀なくされ、毎年開催しています Happiness Meeting も昨年はオンラインでの開催となりました。今年開催を検討する段階では、開催のタイミングや、開催時の国内の感染状況等の不安を抱えておりましたが、大学での授業がオンラインから対面に戻りつつある中で Happiness Meeting も一昨年と同様に対面で一堂に会する形で開催することとなりました。

11月17日に第6回となります Happiness Meeting 2021 を対面で開催いたしました。一昨年と同様に有明キャンパス3号館にて開催する形を取りましたが、感染拡大防止のために「軽食を交えた交流の場」という形は取らず、ポスター発表形式によって、研究員の活動が「世界のしあわせをカタチにする」ことにどのように結びつくのかを

分かりやすくお伝えいただくことで研究員相互の交流機会を設けました。

当日は今年度しあわせ研究費の助成を受けている研究課題から17のポスター発表が行われました。感染拡大防止の観点から、通常行われている学内入構時の検温・手指消毒に加え、入場時にも改めて手指消毒とマスク着用をお願いするなど、一昨年までと全く同じとはなりませんでしたが、60名のみなさんにお集まりいただき、対面での交流を行うことができました。また、例年実施しております Creating Happiness 賞の授与式もあわせて行い、今回は3件の受賞がありました（こちらについては大学 Web サイト上にあります Musashino TIMES の記事もご覧下さい。<https://www.musashino-u.ac.jp/news/20211202-03.html>)

昨年は初のオンライン開催を試みた Happiness Meeting。参加者の場所を選ばなかったり、複数日の開催としたことで参加しやすくなったりという利点もありました。しかし、研究員同士の交流という観点からは対面には対面のよさがあることが、今回あらためて感じられました。

今後も「世界のしあわせをカタチにする」取り組みが様々な形で推進できるように、しあわせ研究を通じた研究者相互の交流の場を設けていきたいと思えます。